



<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>座間市市民協働課</p> <p>平成 27.4.27 受付</p> <p>第 号</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>相互提案型協働事業実施報告書</p> <p>平成27年4月27日</p> </div> </div>	
<p>(宛先) 座間市長</p>	
<p>団体 住所 座間市入谷4-3011-6 2-914</p> <p>名称 ざま災害ボランティアネットワーク</p> <p>代表者氏名 代表 濱田 政宏 </p> <p>市 担当 課 安全防災課</p> <p>所属 長 課長 大塚 吉則 </p>	
<p>次のとおり報告します。</p>	
1 事業名	避難所運営委員会設置支援事業
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	平成25年度選考 (平成26年度実施)
4 報告期間	26年4月1日 から 27年3月31日 まで
5 事業費	179,492円 (うち座間市支出分127,000円)
6 事業概要	<p>座間市地域防災計画によって指定されている避難所が、災害時に円滑に開設・運営できるように必要な常設型の「避難所運営委員会」を設置するために必要な支援事業を提案し、承認を受けて安全防災課とともに取り組んだ。26年度においては、市内の3つの避難所（コミセン：東原、中学校：西中、小学校：相模野）を選んでモデル避難所として取り組んだ。</p> <p>この事業開始に先駆けて、東中学校でトライアルを行って事業を開始した。初めての取り組みで、モデル地域の自治会、自主防災会、民生委員、地域防災推進委員、PTA、地区社協などの参加団体に意識の差があり、双方ともに戸惑いを感じた。当初はこの方々へ講座・訓練への参加を予定していた。しかし、浸透度合いが低く反省が残った。対象避難所の地区防災、災害対応への熱意の差が明確に表れた。今後の参考になった。本事業は引き続き継続事業になる可能性があるため次年度以降は今回の反省を生かして取り組んで行きたいと思う。</p>
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input checked="" type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	避難所運営委員会設置支援事業
-----	----------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	<p>所期の目的は、十分達成できましたか。</p> <p>事前研修が不十分だった。特に施設関係者は災害の基本について地域住民と意識の共有を図る機会として活用してほしかった</p> <p>参加団体は、地域差が明確に表れて面白かった。広報の力の弱さを感じた。災害時にはどうなるのか不安が残った初回としての情報の収集はできたと考ええる。</p>	<p>市としてもこれまで取り組んでいない事業であり、手さぐりの中での事業展開であったが、次年度以降の事業推進に必要なノウハウを得る事ができた。</p> <p>大きなトラブルもなく予定していた3カ所での展開ができたので、設定した事業目標の達成がされたと評価する。</p>
事業成果・効果	<p>事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。</p> <p>避難所施設側の災害対応の意識の差を知ることが出来た。</p> <p>避難所開設に必要な資源（人・物・情報）の脆弱さが見えてきた。</p> <p>熱心な自主防災組織は真剣な取り組みを行っているようだが行政依存の地域も見えてきた。（これが普通なのだろう）このような動きを多くの市民が共感を持って受け入れてくれた。（今後自信が持てた）</p> <p>学校授業中の災害に対しての学校側の災害へのイメージが整理されていないことを感じた。</p> <p>総合的に見て、この事業への着手は、地域で自らを守るという「自守」の体制確立のきっかけになるという確信を持つことが出来た</p>	<p>地域と連携して行う事により、地域のニーズをくみ取りながら各避難所に合致した運営マニュアルを策定する事ができた。</p> <p>避難所となる学校、コミセンにおいては、地域との関係が希薄なところもあり、避難所の運営を核とした有機的な繋がりを築く事ができた。</p> <p>また、避難所開設担当者である市職員のスキルアップを図りながら、避難所開設に係る課題の抽出を行う事ができた。</p>

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	<p>安全防災課の担当者の熱意によって、テストランを行い、神奈川県ガイドラインの有効性を確認して「座間市としてのガイドライン」を作成して後に事業に着手したためにさほど大きなトラブルは見られなかった。</p> <p>当団体との意思の疎通は十分に取れたが、対象地域の自治会などの役員との認識の差が埋まらなかった部分もあったがおおむね、参加避難所運営者は、避難所は自分たちが運営主体者になるということは理解してくれたと思う。</p>	<p>各避難所に避難所運営委員会（準備会）を設け、2回から3回の会議を行っていたが、ざま災害ボランティアネットワーク（以下、「ZSVN」とする。）との事前打ち合わせにより、円滑に進める事ができた。</p> <p>本事業は、市とZSVNとの協働事業に施設管理者、地域団体（自治会等）の連携を求めるものであり、関係者間の調整に苦慮したが、最終的には事業の趣旨をご理解いただけたと思える。</p>
事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	<p>上期に、別の事業を抱えたうえでの両建ての運営を行わざるを得なかったので当初の計画を修正して、両方の事業で共通化できるところは合同で訓練や講座を行うようにして、それが思わぬ良い結果となって表れた。</p> <p>双方の連携はうまくいったと思う。</p>	<p>双方とも他事業の合間を縫ってのスケジュール立てとなった。関係者が多い事業である事から、必要に応じて夜間、休日も活用するなど柔軟に対応することができた。</p>
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	<p>出来ました。</p>	<p>事業の目的を共有し、議論する事ができた。</p>
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	<p>万全だと感じています。</p>	<p>本事業より前に平成23年度から協働事業を行っていることから、互いの特性は十分に理解がされている。担当者だけでなく、組織間の交流も進んでいる。</p>

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	<p>(団体の役割)</p> <p>訓練プランの策定 訓練進行の協力（含む事業説明） 事業説明会議での事業の必要性についての説明 東日本大震災をはじめ過去の災害の中で起きた避難所での問題についての説明などを行い事業の有効性を説明した 訓練中の避難者役への待機中の必要な訓練指導 災害食などについての指導</p>	<p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者への事業説明 ・関係者間の調整 ・事業スケジュールの管理 ・会議の開催と進行 ・会場、資機材の手配 ・広報、PRに関すること

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	適正だったと思います。	分担、業務量ともは適切だったと思える。
実施結果	設定した役割分担を果たすことができましたか。	
	果たすことが出来たと思います。	役割分担に拘らず、相互に補いながら行う事ができた。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	この事業はZSVN単独での実施は不可能である。協働事業ゆえに実現できたものと考えています。	行政単独の事業では、行政への依存が高くなり、地域住民の自立した事業展開を図ることができなかつたと考えられる。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	(団体の考え) 27年度、28年度と継続実施後も、定期的な委員会の運営状況のチェック、訓練への計画参加への関与が必要だと思えます。	(市の考え) 27、28年度は事業対象が増えることから、26年度で得たノウハウを有効に活用し、効率的な事業展開を目指したい。地域の理解を得る事が本事業の成功のカギであることから、地域との良好な関係を築いていきたい。